２．キャッシュ・フロー計算書関係

⑴　資金の期末残高の貸借対照表科目別の内訳

現金及び預金	7,965,426千円
資金期末残高	7,965,426千円

⑵　重要な非資金取引

①　現物寄附による資産の取得	1,636,575千円
現物寄附による小額備品の取得	327,748千円
②　ファイナンス・リースによる資産の取得	3,248,021千円

３．国立大学法人等業務実施コスト計算書関係

引当外退職給付増加見積額のうち国からの出向職員に係る額	1,250千円

４．減損損失関係

⑴　大岡山宿舎ＣＣ

①　減損の兆候が認められた固定資産の概要

用途：職員宿舎
種類：建物及び建物附属設備
場所：東京都目黒区大岡山２―10
期首帳簿価格：1,779千円（建物０千円、建物附属設備1,779千円）

②　減損の兆候の概要

固定資産が使用されている業務の実績が、中期計画等の想定に照らし、著しく低下しているため。

③　減損の認識に至らない根拠

現に使用しており、今後においても使用が想定されているため。

⑵　柳沢峠山小屋

①　減損の兆候が認められた固定資産の概要

用途：山小屋
種類：建物
場所：山梨県甲州市塩山大字小屋敷字滑沢2319番１
期首帳簿価格：1,484千円（建物1,484千円）

②　減損の兆候の概要

固定資産が使用されている業務の実績が、中期計画等の想定に照らし、著しく低下しているため。

③　減損の認識に至らない根拠

現に使用しており、今後においても使用が想定されているため。

⑶　自動車部車庫

①　減損を認識した固定資産の概要

用途：課外活動施設
種類：建物及び建物附属設備
場所：東京都目黒区大岡山２―12―１
期首帳簿価格：7,847千円（建物4,979千円、建物附属設備2,868千円）

②　減損の認識に至った経緯

東急大井町線緑が丘駅周辺地区都市再生交通拠点整備事業及び緑が丘駅バリアフリー事業に関連する工事の実施に当たって、東京急行電鉄株式会社からの要請に基づき本学用地を貸し出すことになったため支障建物となり、平成22年11月10日をもって廃止・取壊しの決定を行いました。

③　減損額

損益計算書上に計上していない金額：建物7,508千円

④　回収可能サービス価額

使用価値相当額が０円であると判断し帳簿価額を０円まで減損した後、当事業年度中に除却処理を行った。

⑷　電話加入権

①　減損を認識した固定資産の概要

用途：電話回線
種類：電話加入権
場所：東京都目黒区大岡山２―10
期首帳簿価格：336千円

②　減損の認識に至った経緯

電話加入権の市場価格が著しく下落し、市場価格の回復の見込があると認められなかったため。

③　減損額

帳簿価額は回収可能サービス価額に比して低廉なため、減損額は計上されない。

④　回収可能サービス価額

使用価値相当額が正味売却価額と比較し高いため、回収可能サービス価額は使用価値相当額を採用する。使用価値相当額は減価償却後再調達価額をもって算定している。

⑸　樹木

①　減損を認識した固定資産の概要

用途：樹木
種類：構築物
場所：東京都目黒区大岡山２―12　１本
東京都目黒区大岡山２―10　２本
東京都大田区石川町１－１　３本
神奈川県横浜市緑区長津田馬ノ背4259番１　10本
茨城県東茨城郡大洗町大貫字角一257　３本
期首帳簿価格：131千円（構築物131千円）

②　減損の認識に至った経緯

工事の支障、立ち枯れのため不用決定を行った。

③　減損額

損益計算書上に計上していない金額：構築物105千円

④　回収可能サービス価額

使用価値相当額が０円であると判断し帳簿価額を０円まで減損した後、当事業年度中に除却処理を行った。

５．重要な債務負担行為

件名	契約金額	うち翌期以降支払額
すずかけ台Ｊ３棟整備等事業	4,841,358千円	4,043,598千円
エネルギー環境イノベーション棟新営工事	1,812,300千円	1,152,900千円

６．金融商品関係

⑴　金融商品の状況に関する事項

当法人は、資金運用については預金、国債、地方債及び政府保証債等に限定しております。資金運用にあたっては国立大学法人法第35条が準用する独立行政法人法第47条の規定に基づき、預金、公債及び金銭信託のみを購入しており株式等は購入しておりません。ただし、寄附により受け入れた社債を保有しております。